

（有）タブチベトナム 東南アジアの水道発展に貢献へ

一現地での製造・販売を通じて、水道工事の技術向上や
水道水質・衛生環境の改善—

全国管工事業協同組合連合会

本会では、2月19日、20日にかけて、32名の役員等が参加してベトナム社会主義共和国の本会賛助会員（株）タブチの子会社（有）タブチベトナム及びビジネスサポート協同組合の技能実習施設を視察した。前編では、（株）タブチの海外展開について紹介する。

1. ベトナムとホーチミン市

1945年9月、ハノイのインドシナ総督府前の広場で、ホー・チ・ミン氏がベトナム共和国の独立を宣言してから70年。大国の思惑に振り回された戦乱が、冷戦終結で落ち着いてから4半世紀が過ぎた。ベトナム社会主義共和国は、戦災復興からの高度成長へと着実に経済成長の歩みを続けている。

2014年に日本を訪れたベトナム人は12万人を超え、ベトナムを訪問した日本人は60万人を超えた。近年ベトナムに対する関心が高まり、日系企業もベトナムへの進出意欲が高まっている。また、安倍総理が就任後、初めての訪問先としてベトナムを選んだように、日本とベトナムとの関係がますます緊密になり、両国関係を「戦略的パートナーシップ」と位置付けている。

国土は九州を除く日本の面積に相当する33万km²、人口9,250万人。民族はキン族90%と53の少数民族からなり、仏教徒が80%である。

行政区分は58省、5直轄都市（ハノイ、ホーチミン、ハイフォン、ダナン、

カンター）となっている。

ホーチミン市は798万人を有するベトナム最大の都市。南部に位置し、滞在時は乾季で最高気温33℃、最低気温22℃。朝夕は涼しく、1年で最も過ごしやすい時期だという。

同市は19世紀にはフランスの植民地となり、その後ベトナム民主共和国の首都サイゴンとして栄え、ベトナム戦争終結後にはホーチミン市と名前を変えた。1986年採択のドイモイ政策による市場経済システム導入以降、同市の経済活動は活発化し、国民総生産の20%余りをしめるベトナム経済の要所。現在はベトナムの経済中心地として目覚ましい発展を続けている。

2. ホーチミン市の水道

サイゴン水道公社は、フランス統治時代の1880年に仏軍によって国内で最初に創設された水道事業体である。現在、8社の管理公社、3社の浄水場管理公社を有している。管理公社のうち6社は民営化しており、その株式を海外企業が購入することは制度上可能となっている。



写真－1 田渕社長

市内の浄水場は5か所あり、最大はDong Nai川を水源とするThu Duc浄水場の75万5千 m^3 /日で、2番目がSaigon川を水源とするTan Hiep浄水場の30万 m^3 /日である。浄水量に占める水源種別の比率は表流水（河川）からの取水が93.9%、伏流水（地下水）からの取水が6.1%となっている。市は、ベトナム政府の掲げる「都市水道開発指針2025」に基づき、2015年までに施設能力2,400万 m^3 /日、管網の新設1,393km、管網の更新527km、無収水率32%を、2025年までに施設能力3,400万 m^3 /日、管網の新設1,015km、管網の更新700km、無収水率25%を目標として掲げている。

3. (株)タブチの海外展開

(1) 東南アジアの水道発展に貢献へ

当日は、(株)タブチの田渕宏政・代表取締役社長と現地法人の出村雅晃ゼネラルマネージャ（GM）に出迎えいただき、現地工場の説明、案内をしていただいた。

現地では、日本のような専門の管工事店も機材商もなく、製品品質や工事技術も良くないという。田渕社長(写真－1)は、ベトナムへの進出について、ベトナムで製造し日本に輸出するつもりはない。サドル分水栓などの高品質な商品を現地で製造・販売することで、「安全でおいしい水」を届け、そのためのソフト技術をコーディネートすることによって同国の水道工事の技術向上や水道水質・衛生環境の改善を目指している。延いては東南アジアの水道発展に寄与できればと考えているからだ。

また、「大きな変動を歓迎するような企業こそが今求められている」という社長の言葉通り、新興メコン（インドシナ半島を貫くメコン川流域のカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムの4か国）を今後の急成長市場としてターゲットにしている。世界銀行の試算によると、2030年の輸出額・GDPの伸び（14年比）は、ベトナムが環太平洋経済連携協定（TPP）加盟12か国のなかで、30.1%・10.0%と共にトップである。

(2) 有望なベトナム市場

出村GM(写真－2、3)から、ベトナムが1986年の経済・社会転換（ドイモイ政策）から発展を続ける、アジアの中でも高い識字率を誇る新興国家であることが説明された。人柄は勤勉で我慢強く、手先が器用。地縁、血縁、学閥、縦割り、根回し、義理人情、先祖崇拜、冠婚葬祭、寺詣で、歳暮などの生活習慣があり、中庸を重んじる。

(2) 有望なベトナム市場

南部と北部の特徴として、南部は熱帯性気候（雨季・乾季）の直時き3期作の豊かなメコンデルタ、北部は亜熱帯性モンスーン（四季）の田植え2期作で急峻なホン河デルタ。気候風土のせいか、北部の人はあまりお金を使わず貯蓄に励む

南部と北部の特徴として、南部は熱帯性気候（雨季・乾季）の直時き3期作の豊かなメコンデルタ、北部は亜熱帯性モンスーン（四季）の田植え2期作で急峻なホン河デルタ。気候風土のせいか、北部の人はあまりお金を使わず貯蓄に励む



写真-2 タブチベトナムの出村GM



写真-3 説明を受ける参加者



写真-4 キズナJV

傾向があり、南部の人は借金してでも欲しいものを買う傾向がある。

同国の優位性として、国内マーケットとしても規模（9,250万人）があり、近隣巨大マーケット（中国13億人、インド12億人、ASEAN7億人）にも好アクセスの位置にある。日本貿易振興機構によると、ベトナムの一人当たりGDPは14年に2,000ドルを超えた段階だが、ハノイでは13年に3,000ドルを、ホーチミンでは既に5,000ドルを超えており、購買力は高まっている。

平均年齢は27.4歳、人口増加率1.2%の人口構造黄金期で、昭和40年代の日本と酷似しており高度経済成長が期待できるという。

(3)有タブチベトナム

①ロケーション

同社は、ホーチミン市内から南へ車で約50分、同市に隣接するロンアン省のタンキム工業団地でキズナJV(株)（写真-4）が運営するレンタルサービス工場の中にある。キズナJVはサイゴン港から20km、タンソンニャット国際空港から24kmで、主に日系中小企業に向けたレンタルサービス工場で、貸し会議室、固定デスク、事務所等のシェアードオフィス、倉庫サービスもある。また、現地で会社設立に伴う代行支援も行っており、入居企業が生産活動だけに集中できる環境を提供できるように日本人1名を含む日本語対応スタッフ合計5名がサポートしている。

ベトナム全体では工業団地が300程度あるが、半数が南部にある。最近では中小企業の進出が盛んで、初めはレンタル工場に入居し、その後に土地を購入して出ていくケースが主流である。

タブチベトナムの会社概要は以下のとおりである。

②製造設備

水没式耐圧検査装置、エアリークテス



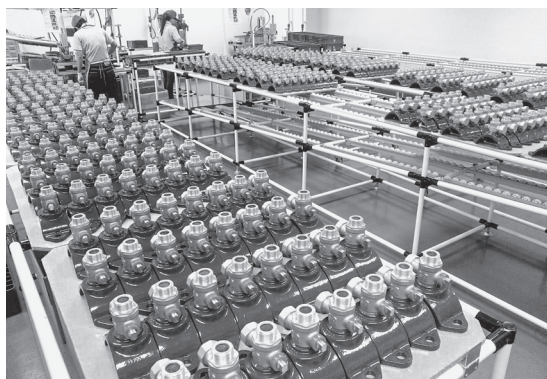
写真－５ 工場入口



写真－６ 受入検査



写真－７ 組立



写真－８ 乾燥中のサドル分水栓

ター、縦型バンドプレス装置、ピン圧入装置、ボール盤、乾燥用コンベアライン

を有している。

製造工程は、受入検査→組立→パッキン接着→乾燥→耐圧検査→梱包→製品となっている。仕入れ時に受入検査を実施しており、出荷時検査で工場での製品管理を徹底している。(写真－５～９)

当日は、現地従業員によるサドル分水栓の不断水施工の分岐工事デモも行われた。(写真－１０)

③製品

１)サドル分水栓 (写真－１１)

バルブとサドルはエポキシ系接着剤で接着され、全数耐圧検査済みで出荷するので漏水が無い。また、分岐工事は専用のドリル工具を使用し、不断水で施工できる。日本で１,０００万個以上の埋設実績のある同社の代表製品である。

会 社 名	(有)タブチベトナム
所 在 地	ロンアン省カンジョック区 タンキム町タンキム工業団地
会社設立	平成２６年３月４日
稼働開始	同年７月２８日
資 本 金	２０億ドン（約１,０００万円、 株）タブチ１００％出資）
代 表 者	出村雅晃氏
従 業 員	１４人（男７人、女５人、 日本人２人）
事業内容	給水器具の製造・販売、浄 水器の製造・販売・メンテ ナンス



写真-9 田淵社長の説明を受ける
全管連の大澤会長（左）

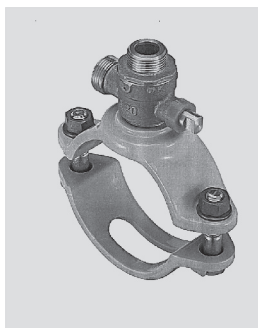


写真-11 サドル分水栓

ベトナムや近隣国の水道局や水道公社を対象とした講習会や説明会（写真-12）を開催している。ホーチミンの漏水率は40%程あり、同社の製品で分岐するだけでも20%に低減できたとする検証工事もある。講習会の引き合いも多いという。作業方法などを動画で公開し、工事技術の向上にも努めている。

2)工場向け浄水システム（写真-13）

0.2 μ mまで有害物質を除去できる高性能な圧縮固形活性炭フィルターと紫外線殺菌装置を組み合わせた浄水システム。既存の水道配管から分岐をして、工場内に飲用水を供給でき、ボトルウォーターなどにかかっている経費を大幅に削減できる。

現地は、近年の経済発展に伴い、生活

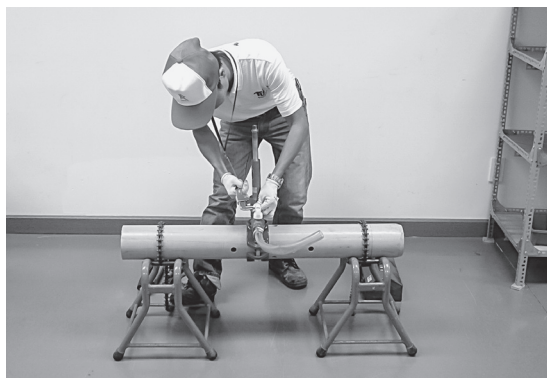


写真-10 不断水施工の分岐工事デモ



写真-12 サドル分水栓施工講習会

雑排水による河川の汚染が深刻化しており、水道水は飲用に適していない。

3)家庭用浄水器（写真-14）

0.2 μ mまでの有害物質を除去できる、高性能な圧縮固形活性炭フィルターを使用した浄水器（NSF認証の国際基準適合）。既存の水道の蛇口から分岐をとり、簡単に設置できるという。日本では販売していないが、ホーチミンに展開しているコンビニエンスストアのミニストップの各店舗に採用されている。

4)エア用配管システム（写真-15）

樹脂とアルミの三層構造の配管で、一般的な鋼管配管に比べ7分の1の軽さ。施工性が良く、天井の補強工事も必要ない。パイプ切断は簡単で、ねじ切り不要のため作業時間は約5分の1（同社比）。

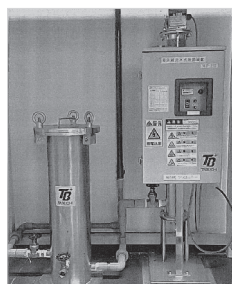


写真-13
工場向け浄水システム



写真-14 家庭用浄水器

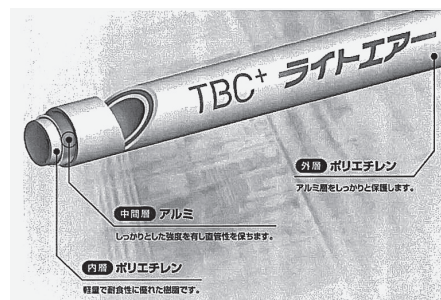


写真-15 エア用配管システム



写真-16 工場天井のエア配管

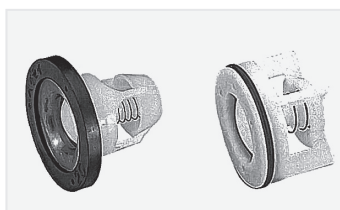


写真-17 コンパクト逆止弁

樹脂でできているため簡単に曲げることができ、曲げた形状を保持するため、継手個数が少ない。錆びることが無く、耐食性・耐久性に優れている。実物を工場内の天井に取り付けてあり、見学できる（写真-16）。

5) コンパクト逆止弁（写真-17）

井戸水や工業用水などと、上水道とのクロスコネクションによる水質汚染事故を防ぐために使用。コンパクトな設計で、方向性を問わず設置可能。配管、サイズ、使用用途別に様々なバリエーションがある。

4. 小学校にサッカーボールとノートを寄付

工場視察に先立ち、タブチ及びタブチベトナムに協力をいただき、出村GMか

ら工場近くのTankim I 小学校に、全管連が寄付したサッカーボール10個とノート500冊を贈呈していただいた。同校より感謝状（写真-18）をいただき、田淵社長と全管連の大澤会長が見学者に披露した（写真-19）。また、現地のロンアン新聞に紹介された（写真-20）。

5. 視察研修を終えて

ベトナム人ガイドによると近代的な高層ビルが林立するホーチミン市内でも週に1回、数時間の断水や停電になるという。外国人観光客などが宿泊するホテルは自家発電で対応しているが、水道水は飲まないように注意を受ける。

道路整備が足りず、ハノイまでの高速道路はまだ通っていない。政府は自動車購入の税率を高くして制限を掛けているためか、道路にはバイクが溢れている。バイクには大人が2人まで、子供は無制限に乗車できる。フランスのロータリ式交差点が多く、信号機も少ない。

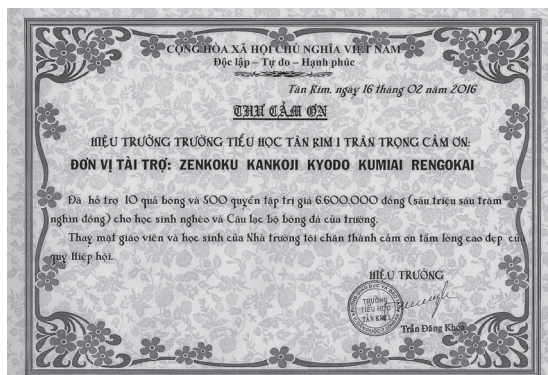


写真-18 小学校からの感謝状

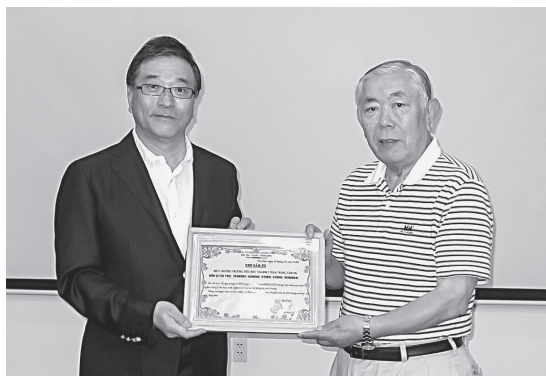


写真-19 感謝状を披露する田淵社長と大澤会長（右）

しかし、市中心部のベンタイン市場と北東部のスイティエン公園を結ぶ、総延長19.7kmの都市鉄道1号線が今年の開業を目指して着工中。また、北東35kmのドンナイ省にロンタイン国際空港を2020年開港を目標に整備している。

日本では道路、鉄道、電気、水道など

の社会資本のインフラは関係者の努力で当たり前。インフラの有り難さを実感するベトナム視察となった。このような貴重な機会をいただいた田淵社長、出村GM、北関東エリアセールスの松浦晃久セールスDIV長に御礼申し上げます。

〔記事翻訳〕全管連・タブチベトナム

地元Tankim I 小学校に訪問し、寄付

2月16日、タブチベトナムの出村GMが全管連の代理としてTankim I 小学校に表敬訪問し、学校幹部並びに教員や生徒たちと面談、全管連からの寄付であるサッカーボール10個とノート500冊を贈呈しました。

全管連は日本全国にある水道工事会社16,000社の中央団体で、ベトナムの水道事業視察のため2月18日～21日にホーチミン市とハノイ市を訪問し、タブチベトナムも視察先のひとつである。

タブチベトナムは日本の(株)タブチの現地法人で、主にサドル分水栓、給水管、継手、ボルト、浄水器等の製品をベトナム国内の水道会社やプロジェクトに供給している。

HIỆP HỘI NHÀ THẦU HỆ THỐNG ống nước NHẬT BẢN

Thăm và tặng quà cho Trường Tiểu học Tân Kim 1, Cần Giuộc

Ngày 16-2-2016, ông Masaaki Demura - Tổng Giám đốc Công ty TNHH MTV Tabuchi Việt Nam (gọi tắt là Công ty Tabuchi Việt Nam), đại diện cho Hiệp hội Nhà thầu hệ thống ống nước Nhật Bản đến Trường Tiểu học Tân Kim 1 (xã Tân Kim, huyện Cần Giuộc) thăm tập thể cán bộ, giáo viên, học sinh của trường. Nhân dịp này, ông Masaaki Demura trao 10 quả bóng và 500 quyển tập đến học sinh của trường.

Hiệp Hội nhà thầu hệ thống ống nước Nhật Bản (JAPAN PLUMBING HEATING AND AIRCONDITIONING CONSTRUCTORS' ASSOCIATION) là tập đoàn của 16.000 nhà thầu của hệ thống cấp nước tại Nhật Bản.

Được biết, từ ngày 18-2 đến ngày

21-2-2016, Đại diện của Hiệp hội nhà thầu hệ thống ống nước Nhật Bản đến TP.HCM và Hà Nội khảo sát về thực trạng của ngành Cấp nước tại Việt Nam. Đặc biệt, đoàn đến thăm hệ thống nhà xưởng của Công ty Tabuchia Việt Nam.

Công ty Tabuchi Việt Nam là công ty con của Công ty Cổ phần Tabuchi (Nhật Bản) với hơn 73 năm kinh nghiệm trong hoạt động sản xuất, kinh doanh trong ngành cấp nước tại Nhật Bản. Hiện tại, Công ty Tabuchi Việt Nam chuyên sản xuất các sản phẩm phục vụ cho ngành Cấp nước như: Đại khối thủy tích van, ống ngành, mối nối, bu lông, máy học nước... cho các công ty cấp nước và các dự án cấp nước trong nước Việt Nam.

MAI HUONG



写真-20 寄付を伝える地元紙